

生理学的成熟度による月齢判別に関する フォローアップ報告書について

1 経緯

2005年2月8日に公表された「牛の月齢判別に関する検討会」報告書において、留意事項として、「A40の有効性を確認するため、追加的検証または実施後のフォローアップが必要である」とされており、フォローアップ研究の実施を米国側に要請してきたところ、昨年12月28日に米国側より、報告書の提出があった。

2 報告書の概要

- (1) オリジナル研究(2005年2月)と同様に21ヶ月齢以上の牛由来の枝肉がA40以下に評価されることはなく、A40以下に評価された枝肉は、全て18ヶ月齢以下であった。
- (2) 本研究は、オリジナル研究の結果を裏付けるものであり、生理学的成熟度A40は、全ての対日輸出牛肉製品が20ヶ月齢以下の牛由来であることを保証する適切な境界であると結論。

3 「牛の月齢判別に関する検討会」委員の評価

「牛の月齢判別検討会」委員全員に検証を依頼したところ、今回のフォローアップ研究の結果をもってオリジナル研究の結果が変わるとは考えられないとの意見が出され、本報告書の結論について異存はなかった。